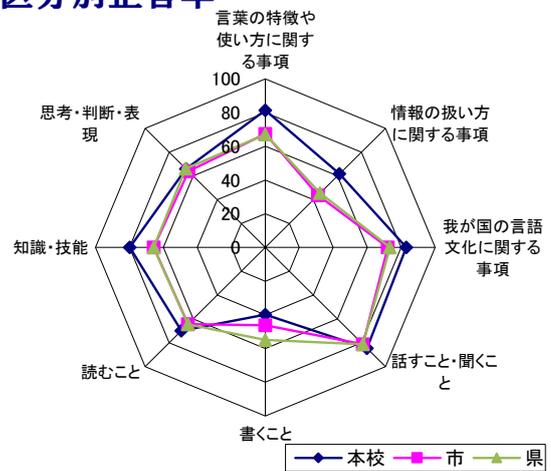


宇都宮市立今泉小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	81.4	67.4	67.1
	情報の扱い方に関する事項	61.7	43.8	45.7
	我が国の言語文化に関する事項	83.0	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	84.6	81.2	81.2
	書くこと	39.9	46.2	54.9
	読むこと	69.8	64.3	64.5
観点	知識・技能	79.8	65.7	65.7
	思考・判断・表現	66.0	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

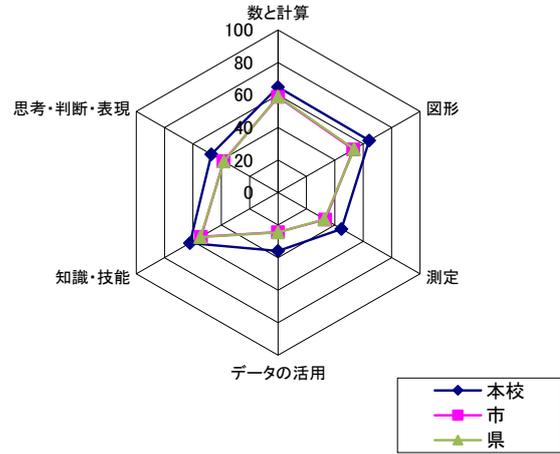
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は、市や県の平均を10ポイント以上上回っている。</p> <p>○主語と述語の関係をつねることができるかみる問題や反対の意味を持つ言葉をつねることができるかみる問題の正答率は約90%と高く、よく理解できていることが分かった。</p> <p>●「曲がる」を正しく書く問題の正答率は63.8%で県の平均を下回った。また、他の問題に比べて正答率が低かった。送り仮名を間違えて解答している児童が若干名いる。</p>	<p>・漢字の字形を覚えるだけでなく、文中での使い方や成り立ちについての理解が深められるよう、指導を工夫していく。</p> <p>・AIDリルなどを活用し、繰り返し学習をすることで基礎基本の定着を図っていく。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、市や県の平均を15ポイント以上上回っている。</p> <p>○●国語辞典の使い方を理解し、使うことができるかみる問題の正答率は、市や県の平均を10ポイント以上上回っている。しかし、正答率は60%程度とやや低い。例文で用いられた語彙の意味として適するものを選ぶことができていない。</p>	<p>・国語辞典の使い方について、日常的に指導していく。</p> <p>・説明文や物語文の学習では、意味が分からない言葉について辞書を使って意味を調べる活動を取り入れる。また、本文に合った意味を選び出す活動を意図的に設定し、語彙を増やしていくことができるようにする。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市や県の平均を上回っている。</p> <p>○漢字のへんやつくりを正しく組み合わせて既習の漢字をつねることができるかみる問題の正答率は83.0%で、県や市の平均を10ポイント程度上回っている。</p>	<p>・漢字のへんやつくり、ことわざや故事成語など、言語に関する学習について、朝の学習や家庭学習を中心に、継続的に取り組むよう指導していく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市や県の平均を約3ポイント上回っている。</p> <p>○相手に伝わるように自分の考えを理由を挙げながら話すことができるかみる問題の正答率は92.6%で、市や県の平均を10ポイント程度上回っている。</p> <p>●話し手が伝えたいことの中心をつねることができるかみる問題の正答率は87.2%で、市や県の平均をやや下回っている。</p>	<p>・話し手が伝えたいことは何かを考えて聞くことができるよう日常的に指導していく。また、聞いて終わりではなく、感想を伝えたり、共感したり、質問したりする活動を意図的に設けることで、考えながら話を聞くという習慣を身に付けられるようにする。</p> <p>・簡潔に考えを伝えるために、初めに自分の考えを伝え、次に理由や根拠を述べるということを繰り返し指導していく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均を6.3ポイント、県の平均を15ポイント下回っている。</p> <p>●無回答率が23.4%でとても高く、市や県の無回答率を上回っている。</p> <p>●指定された長さで文を書くことができるかみる問題の正答率は42.6%で、市や県の平均を10ポイント以上下回っている。また、2段落構成で文を書くことができた児童は全体の40%を下回っている。</p>	<p>・段落や基本的な文章構成などを繰り返し指導することで、書くことの基本的な知識技能を身に付けることができるようにする。</p> <p>・書くことの単元に限らず、朝の学習や家庭学習など短い文を書く活動を日常的に行う。</p> <p>・授業のまとめや振り返りなどを書くときに、条件を与えたり文字数を指定したりするなど、端的にまとめる力が身に付くよう工夫して指導する。</p>
読むこと	<p>平均正答率は69.8%で、市や県の平均を約5ポイント上回っている。</p> <p>○物語文で、登場人物の気持ちや場面の様子について叙述を基に捉えることができるかみる問題の正答率は、約90%で比較的高かった。</p> <p>●説明文で、段落の内容ごとのまとまりの分け方として適するものを選ぶ問題の正答率は48.9%で、市や県の平均を下回っている。</p> <p>●指示語の内容として適するものを選んだり、文章の要約を読み、空欄に適する語を書き抜いたりする問題の正答率は、市や県の正答率を上回っているものの、60%程度とやや低かった。</p>	<p>・読書活動の充実を図り、様々なジャンルの本に触れることができるよう指導を工夫する。</p> <p>・物語文の学習では、文の叙述に着目し、登場人物の気持ちや場面の様子について根拠をもって考えをまとめることができるよう指導していく。</p> <p>・説明文の学習では、段落ごとの内容の読み取りだけにとどまらず、全体の構成や段落のつながりに着目することができるよう繰り返し指導していく。</p>

宇都宮市立今泉小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	64.9	58.9	59.2
	図形	64.2	53.0	53.7
	測定	44.7	33.1	32.6
	データの活用	35.9	24.4	24.6
観点	知識・技能	62.2	54.3	54.7
	思考・判断・表現	47.1	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

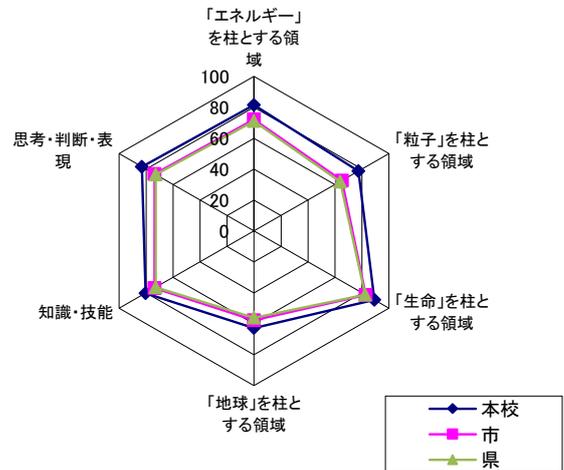
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均を6ポイント、県の平均を5.7ポイント上回っている。</p> <p>○数量関係について口を使って正しく表された図や式を選ぶ問題の正答率は、市や県の平均を上回っている。</p> <p>●かけ算の計算の仕方について説明する記述式の問題の正答率は、市や県の平均を上回っているが、正答率は11.7%と他の問題に比べると低い。また、無回答率も10.6%で学習した知識を活用し、表現する力に課題があると考えられる。</p>	<p>・基本的な四則計算について、朝の学習やAドリルを活用して繰り返し学習することで、正確に計算する力を身に付けることができるようにする。また、計算の仕方について、既習事項を使って図や式で表す活動を意図的に設定し、表現する力を身に付けることができるようにする。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均を11.2ポイント、県の平均を10.5ポイント上回っている。</p> <p>○球の性質を利用して、長さを求める問題や、作図の問題の正答率は、県や市の平均を上回っている。</p> <p>●コンパスを使って、円上の直線を1つの辺とする三角形を作図する問題は県や市の平均を上回っているが、正答率が44.7%で低かった。また、無回答率は13.8ポイントと高い。図形の性質を理解はしている児童が多いが、知識を応用させて問題を解く力に個人差が大きいと考えられる。</p>	<p>・学習した知識を活用して問題演習を行うだけでなく、作図の手順や図形の性質について説明する活動を積極的に設定し、より一層学習内容の定着が図れるようにする。</p> <p>・身の回りの具体物の中から三角形や円、球など見出す活動を設定し、それぞれの図形がもつ性質が日常生活の中でどのように役立てられている考えさせていく。学習内容と自分の生活のつながりに気付かせることで、学習に対して必要感をもって取り組むことができるようにする。</p>
測定	<p>平均正答率は、市の平均を11.6ポイント、県の平均を12.1ポイント上回っている。</p> <p>○地図から道のりを読み取り差を求める問題の正答率は、県や市の平均を上回っている。</p> <p>●はかりの目盛りを読み取る問題は、市や県の平均を上回っているが、正答率が29.8%と低かった。はかりの読み方や、単位換算ができない児童が多いと考えられる。</p>	<p>・学習単元として扱いの少ないばかりは、算数以外の時間などで積極的に活用し、理解が深められるようにする。</p> <p>・既習事項である単位換算は、定期的に復習の時間を設ける。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均を11.5ポイント、県の平均を11.3ポイント上回っている。</p> <p>○棒グラフを読み取り、二番目に多い落し物の種類を答える問題の正答率は、市や県の平均を上回っている。</p> <p>●示されたテーマについて、適切なグラフを選び、選んだ訳を説明する問題は、市や県の平均を約9ポイント上回っているが、正答率は20.2%と低い。</p>	<p>・算数だけでなく社会科や理科の学習でも、表やグラフなど資料の見方や資料を扱う目的を丁寧に指導し、定着を図っていく。また、資料から分かることや考えたことについて話し合う活動を通して、多角的・多面的に読み取る力が身に付くよう指導していく。</p>

宇都宮市立今泉小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	81.5	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	77.4	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	89.2	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	62.8	57.7	56.2
観点	知識・技能	80.4	73.8	72.8
	思考・判断・表現	83.1	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均を9.4ポイント、県の平均を10.5ポイント上回っている。</p> <p>○手でにぎるとトライアングルの音が止まる理由を答える問題と、実験の結果をもとに日光を集めたところの大きさを選ぶ問題は、県の平均を15ポイント以上上回っている。</p> <p>●車を前に動かすために近づける磁石の極を答える問題は、市や県の平均を約3ポイント上回っているが、無回答率が3.2%と他の問題に比べて高かった。□</p>	<p>・実験の結果や考察を言葉でまとめることを繰り返し行い、実験と結果を結び付けて考えられるよう指導を工夫する。</p> <p>・問題文を注意深く読むように指導し、質問に合う答えを取捨選択する力を身に付けさせる。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均を12.2ポイント、県の平均を13.5ポイント上回っている。</p> <p>○実験の結果について正しいものを選ぶ問題は、市の平均を8.7ポイント、県の平均を10.1ポイント上回っている。</p> <p>●体積が同じでも種類によって重さが違うことを答える問題は、市や県の平均を15ポイント以上上回っているが、正答率が57.9%で他の問題と比べると誤答が目立った。</p>	<p>・実験のまとめをする際には、キーワードなどを基に自分の言葉で記述できるよう繰り返し指導する。また、表やグラフなどと関連付けて考えることができるよう、指導を工夫する。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均を6.4ポイント、県の平均を6.8ポイント上回っている。</p> <p>○植物のめばえについて理解しているかをみる問題と、生きものの差異点や共通点を見いだすことのできるかをみる問題は、市や県の平均を10ポイント以上上回っている。</p> <p>●虫めがねの使い方を身に付けているかをみる問題は、市や県の平均を10ポイント以上上回っているが、正答率が66.3%とやや低く、他の問題に比べると理解が不十分であると言える。</p>	<p>・昆虫とダンゴムシの体のつくりの違いについては、昆虫の体のつくりを知識として学ぶだけでなく、ダンゴムシやその他の身の回りの生き物について、昆虫といえるか判別する活動を行うなど、知識を活用する場面を取り入れる等、指導を工夫する。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均を5.1ポイント、県の平均を6.6ポイント上回っている。</p> <p>○かげが太陽の反対側にあることを理解し、かげふみの動きと結びつけられているかをみる問題は、市や県の平均を10ポイント以上上回っている。また、正答率が85.3%でよく理解できていると言える。</p> <p>●太陽が動く方位を理解しているかをみる問題は、市や県の平均を約7ポイント下回っている。また、正答率が47.4%で、全部の問題の中で最も低い正答率だったことから、十分に定着していないことが分かった。</p>	<p>・児童の誤答分析の結果、正答と全く逆の選択肢を回答している児童が多かった。そのことから、問題の図から「太陽が見える向き」と「影」の向きを取り違えて問題に回答している可能性も考えられる。そのため、「太陽が見える向き太陽が東から昇って西に沈む」という言葉の理解だけでなく、実際に太陽の動きを観察した際に、観察シートを使って、記録した影とそこから考えられる太陽の向きを考えさせるなど、観察結果を丁寧に考察することで、知識に繋げる工夫をする。</p>

宇都宮市立今泉小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある。」に対する肯定的回答の割合は85.3ポイントで、市や県の平均をわずかに上回っていた。今後は児童の疑問を生かし、授業の内容を深めたり、自主学習につなげたりし、よりよい学びへ発展できるようにしたい。

●「家で、自分で計画を立てて勉強をしている。」に対する肯定的回答の割合が60.0ポイントとで、市の平均を14.2ポイント、県の平均を16.7ポイント下回っていた。「家で、学校の授業の予習をしている」に対する肯定的回答の割合は37.9ポイントであった。これは市の平均を19.8ポイント、県の平均を22.7ポイントも下回っていた。また、「家で、学校の授業の復習をしている。」に対する肯定的回答の割合も市と県の両方の平均を下回っており、これらの結果から、家庭でも自主的な学習習慣があまり確立されていないことが伺える。児童の家庭学習の習慣化を図るため、開始時刻と学習時間を決める取組や、家庭との連携を積極的に行っていきたい。